

男女共同参画学協会連絡会第3回シンポジウム関連資料
正式加盟及びオブザーバー加盟学協会の
年間活動報告

応用物理学会、化学工学会、電子情報通信学会、日本化学会、日本原子力学会、日本女性科学者の会、日本数学会、日本生物物理学会、日本生理学会、日本蛋白質科学学会、動物学会、日本バイオイメージング学会、発生生物学会、日本物理学会、日本分子生物学会、日本森林学会、地盤工学会、日本金属学会、女性技術者フォーラム、日本植物学会、名古屋大学の動き、地球電磁気、土木学会

2005年10月6日

[本資料の著作権に関する注意]

1. 内容を転載する場合は、男女共同参画連絡会の承認をとること
2. 転載内容については、連絡会の資料であることを明記すること

男女共同参画学協会連絡会 第3回シンポジウム関連資料
©男女共同参画学協会連絡会



応用物理学会の概要

1946年設立。物理、化学や生物などの基礎科学と工学とを結ぶ広い範囲をカバーしている。工学と物理学の接点にある最先端のテーマや学際的な分野も対象とする。会員数は約24,000名。うち、60%が企業、約30%が大学、7%が公立研等の所属。企業の技術者・研究者の比率が高い点が応用物理学会の特徴である。毎年、春季・秋季学術講演会を開催し、延べ8,000件の講演がおこなわれ、約15,000名の会員が参加する。

応用物理学会男女共同参画委員会

2001年2月の男女共同参画ネットワーク準備委員会発足に続き、2001年7月に男女共同参画委員会が設立された。2005年度の委員会は、委員25名(うち、女性16名・男性9名、企業8名・大学11名・公立研6名)、サポーター・顧問27名(女性14名・男性13名、企業8名・大学16名・公立研3名)より構成される。女性の機会拡大のみではなく男性の参画を同様に重視している。また、企業の技術者の視点、多様性への配慮などを大事にしている。

委員会のこれまでの活動

シンポジウムの開催 (春季学術講演会)

- 2001年3月「IUPAP-WG “Women in Physics” の活動状況」と意見交換(明治大学)
- 2002年3月「21世紀の技術者・研究者と男女共同参画」(東海大学)
- 2003年3月「多様化する技術者・研究者のスタイルと価値観 - 日本の技術競争力を強化する評価・制度とは - 」(神奈川大学)
- 2004年3月「科学技術立国で生きる人材 - 産・官・学における未来型人材育成 - 」(東京工科大)
- 2005年3月「本気でとりくむ男女共同参画 - ワーク・アンド・ライフ・バランスを考える - 」(埼玉大)

インフォーマルミーティングの開催 (秋季学術講演会)

- 2001年9月「ガラスの天井を突き抜けて」(愛知工大)
- 2002年9月「若手技術者・研究者の理想と現実 - どのような環境が働きやすいか - 」(新潟大学)
- 2003年9月「若手技術者・研究者の多様なキャリアパス」(福岡大学)
- 2004年9月「若手からの提言 - 多様化するライフスタイルとキャリアプラン - 若手技術者・研究者の未来予想図」(東北学院大)
- 2005年9月「若手のワーク・アンド・ライフ・バランス - みんなで考えよう “仕事と育児” - 」(徳島大)(右図はそのポスター)

アンケート調査の実施 2001年度に応用物理学会全会員を対象とした男女共同参画に関するアンケートを実施した。2003年度に男女共同参画学協会連絡会で実施した文部科学省委託のアンケート調査「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像 - 男女共同参画推進のために - 」の実施にも協力した。

学術講演会時の託児室設置 2002年に実施した講演会託児施設に関するアンケート調査の結果を受けて、子育て中の会員の講演会参加をサポートするため、2004年春季講演会より託児室設置を開始した。2004年春季(東京工科大)の利用者は5名・日、2004年秋季(東北学院大)は6名・日、2005年春季(埼玉大)は15名・日であった。

各組織との連携 IUPAPのConference on Women in Physicsに第1回(パリ)、第2回(リオデジャネイロ)とともに小舘初代委員長を中心として参加し、応用物理学会における取り組みについて紹介した。第5回アジア学術会議(ハノイ)に日本学術会議より派遣され、近藤委員長がGender Workshopにて連絡会アンケート結果について報告をおこなった。また、後藤俊夫前応用物理学会会長と連携して、2004年11月に開催された日本学術会議主催公開講演会「どこまで進んだ男女共同参画」(右図)の企画に全面的に協力した。

その他、委員会活動の詳細については、ウェブページ(<http://www.jsap.or.jp/activities/gender/>)を参照されたい。



(社) 化学工学会

The Society of Chemical Engineers, Japan

1. 学会紹介

本学会は1936年化学機械協会として会員数162名で発足。1996年に個人会員数10,000人を越えました。本会の一番重要な務めは、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を社会に有機的に還元するための中心的学会として活動することとなっています。そのため、日頃から産・学・官の垣根を取り払い、お互いに切磋琢磨し協力できるたくさんの場を提供しています。また総合工学として、多くの関連学協会との連携を進めています。このような活動を通じて、化学工学をはじめとする広い範囲の産業分野の研究や技術の開発の推進に積極的に取り組み、環境と調和した高度産業社会の構築のために重要な役割を果たしています。

会員の構成は、企業61%、大学18%、公的機関7%、学生14%になっています。各会員は全体の活動に加えて、種々の部会、研究会に所属して活動しています。女性会員の活動状況は、理事会や委員会で活動している女性はほんの数名で、この数を増やしてゆくのが当面の目標です。

2. 本年度の主な活動状況

1) 「先輩女性会員からのメッセージ」を連載

(2004年9月スタート)

学会WEBに化学工学を学び、社会に出て活躍している女性たちに、日頃感じていることや考えていることを自由に書いて頂き、広く会員に紹介する企画です。現在大学や大学院で勉強している女子学生に、進路決定の情報源を提供します。毎月1回、新しい記事を掲載しています。

2) 「化学工学会が贈る -女子学生のためのイブニング就職セミナー」開催

(2004年11月スタート)

女子学生あるいは就職担当教員を対象としたセミナー。「女性社員採用に対する企業の考え方」や「科学技術系女性社員に期待すること」を企業側から話題提供していただくとともに、「私が選んだ職種と職場」「会社での女性社員の立場」を現在最先端で活躍中の先輩女性に講演していただいています。年2回春・秋に開催しています。

3) 「女性のみなさんランチタイムを一緒にいかが」開催

(2005年年会より)

女性技術者、女性研究者が意見交換できる場として、今春の第70年会で初めて女性会員を中心にした交流会を開催し、多くの方にご参加いただき職種や年代を超えたさまざまな意見交換ができました。参加頂いた方全員から、「このような交流会を今後とも続けて欲しい」とのご意見を頂き、この秋季大会でも、初日にランチタイムを利用した交流会を催しました。科学系技術者の抱えている問題点をこの交流会で抽出し、それらの問題点への取り組み方を議論できる場へと発展させていく予定です。

4) 「男女共同参画学協会連絡会2周年記念行事」参加

(2004年10月7日)

2003年に行われた“科学系技術者の実態調査アンケート”について本会会員についての解析を行い、連絡会報告書の結果と比較することにより本学会の傾向についてまとめました。

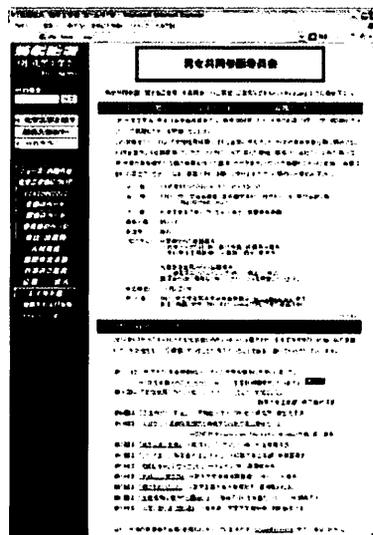


Fig. 1. 委員会HPより



Fig. 2. イブニング就職セミナーの様子

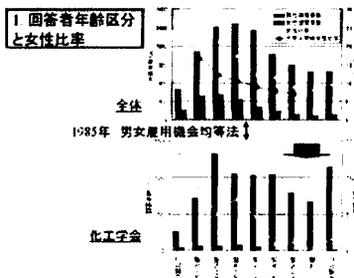


Fig. 3. アンケート解析結果より

電子情報通信学会男女共同参画委員会活動報告

荒川 薫

明治大学理工学部情報科学科

1. 電子情報通信学会独自の男女共同参画に関するアンケート調査

2003年度男女共同参画学協会連絡会で行ったアンケート集計結果を参考にして、本学会独自のアンケート調査を行った。男性会員 888 人（回収率 2.4%）、女性会員 111 人（回収率 12.3%）から回答があつまり、その結果、本学会員が男女共同参画委員会に期待する活動として次のものが多く選ばれた。

	男性会員	女性会員
1位	育児や家族の介護などの問題を解決するため社会へ働きかける。	育児や家族の介護などの問題を解決するため社会へ働きかける。
2位	学会内の活動に女性が参加しやすいように働きかける。	科学研究費や職場の待遇、また政府・学術団体などの委員会における男女格差をなくすために社会へ働きかける。
3位	女性会員を増やす。	学会内の活動に女性が参加しやすいように働きかける。

2. 小・中学生の科学教室「不思議がいっぱい科学の世界」共催

2005年3月19日(水) 13時～16時、電子情報通信学会主催小・中学生の科学教室「不思議がいっぱい科学の世界」が大阪大学豊中キャンパスで開催され、これに共催団体として参加した。参加者 56 名。「携帯電話の将来—これからのケータイはどうなるの?—」などの講義、研究室見学がなされた。

3. 2005年総合大会にて男女共同参画特別講演開催

2005年3月22日(火) 2005年電子情報通信学会総合大会において男女共同参画特別企画「電子情報通信工学における男女共同参画の現状と今後の展開」を開催した。男女共同参画アンケート集計結果を発表すると共に、IEEE 日本支部マイクロ波工学ソサイエティで新しく立ち上げたW I E (Women in Engineering) の紹介を行った。

4. 女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～の共催

2005年8月22-23日国立女性教育会館で開催された女子高校生夏の学校に本学会が共催団体として参加し、本委員会メンバも企画委員として参加。講演者の推薦、ポスター展示を行い、女子高校生に電子情報通信工学のおもしろさを伝えた。

5. 電子情報通信学会誌「女性会員に期待する」2005年11月特集号の企画

本学会誌初めて、女性会員に焦点をあてた企画を行った。本企画には、男女共同参画アンケート集計結果、活躍している女性研究者の研究紹介、女性研究者をとりまく職場環境や今後の抱負などに関する座談会内容を載せる予定である。

日本化学会における男女共同参画推進の取り組み

The Chemical Society of Japan (2005.9.9)

1. 日本化学会とは

日本化学会は明治 11 年 (1878 年) に創設され、化学と化学工業の全分野を網羅する基幹学会である。
会員数 31,694 名、(内女性会員 3,055 名、9.6%) (2005 年 6 月現在)

2. 男女共同参画推進委員会の発足

平成 14 年 9 月に男女共同参画推進委員会が発足した。年間、約 5 回の委員会を開催している。

委員：相馬 (委員長)、森 (副委員長)、井上、西川、松村、馬場、栗原、嶋田、西原、小川、讃井、野村、藤田、太田、佐藤、古徳

3. 男女共同参画シンポジウムの開催

全国規模の年会 (約 9000 名参加) にて、男女共同参画に関するシンポジウムを 5 回、開催した。

第 6 回 平成 18 年 3 月 第 86 年会 (日本大学) 予定

4. 学会開催中の託児所の設置

平成 13 年 3 月の第 79 春季年会で初めて開設され、その後、継続して年会会場内に設置され、好評である。

5. 女性会員の委員登用に關するポジティブアクション

ポジティブアクションの提案が平成 15 年 1 月の理事会で承認された。主な内容は次の通りである。

- 1) 理事会、支部、部会、委員会等における女性会員の比率が 2010 年までに 20% になるように女性の登用に努める。
- 2) 日本化学会が主催する学会、講演会等において基調講演や招待講演者の中に女性科学者を含め、ロールモデルとして示すこと。
- 3) 優れた女性化学者を顕彰する賞を創設すること。

このポジティブアクションの活動の成果として、平成 17 年度より理事会に 1 名の女性理事枠が誕生した。従来の選出方法により、かつて 2 回、女性理事が選出されたが、今後は 26 名の理事中、女性理事が継続していることになる。

6. Pacifichem 2005 に参加予定

2005 年 12 月 16, 17 日にハワイで開催される Pacifichem 2005 で Women Chemists: Past, Present and Future と題する シンポジウムをオーガナイザー (アメリカ、カナダ、日本) として実施する。日本からの申し込みは、Oral 5 件、Poster 3 件である。

7. 女性比率調査

最近、連絡会で一般会員と学生会員における女性比率の違いが調査された。日本化学会における一般会員の女性比率は 7.7% であるが、学生会員の女性比率は 18.7% に増加しており、今後の女性研究者の活躍が期待される。なお、女性比率が高い生物系学会と、低い工学系学会における女性比率を比較のために表 1 に示した。

表 1. 学生会員と一般会員の女性比率

	一般会員 女性比率 %	学生会員 女性比率 %	総会員数	総女性 会員数	全体の女 性比率 %	女性比率 (学生/ 一般)
日本化学会	7.7	18.7	31,694	3,055	9.6	2.43
生物系学会	17.0	31.9	77,073	15,630	20.3	1.87
工学系学会	1.4	6.4	198,933	3,809	1.9	4.54

日本原子力学会 活動報告(2004年10月~2005年9月)

日本原子力学会は、1957年に設立され、現在会員約6650名(内女性会員約150名)を擁する。男女共同参画に関する活動は、総務財務委員会内に2003年1月に設立された男女共同参画ワーキンググループを中心に行っている。ワーキンググループは、アドバイザー1名、主査1名、幹事1名、委員5名、事務局で構成されている。

当該期間における男女共同参画関連の活動は以下のとおりである。

1. 男女共同参画学協会連絡会の幹事学会、副委員長への就任

2004年10月7日男女共同参画学協会連絡会(以下、連絡会)の第2回シンポジウムにおいて、当学会は、日本化学会とともに幹事学会を任命され、副委員長を拝命した。それにより、日本化学会から任命された相馬芳枝委員長、井上祥平副委員長とともに、率先して、連絡会活動をリードし、事務局業務も行った。またホームページ運営について、充実強化に貢献した。

2. ワーキンググループメンバーの充実

全会会員へ日本原子力学会男女共同参画ワーキンググループ(以下、WG)の新規委員の募集を行い、3名の会員が委員に任命された。これにより、問題提起、討論がより活発になり、今後原子力学会内の課題を解決のための、組織強化ができた。期間中、3回のWG会合を行った。

3. 2005年3月29日：春の年会でのアンケート結果発表 「科学技術分野の男女共同参画と原子力学会の現状」

2003年8月から11月に行われた連絡会調査に当学会も協力し、約400件のデータを得た。このアンケートでは、女性会員の回答率が高く、女性のほうが、高い関心を持ってアンケートに参加したことがわかる。分析の結果、原子力学会の特徴は、以下のとおりである。

女性会員割合が2%と少ないため、女性回答者の絶対数が少なく、参考的な傾向しかわからない。(回答率：男性5%、女性18%) 原子力学会はの男性の回答者年齢層が高い。男女とも企業の所属が多い。勤務形態は、常勤が多い。(連絡会では大学関係者が多いので、任期付研究職への関心が高い) 総じて、学協会全体が、長時間労働だが、原子力学会は、女性の方が労働時間が長い。原子力学会は、男性では、学協会より役職者割合が多いのに、女性では学協会の半分以下である。研究開発費は、男女では3倍の開きがある。男女とも半数以上が、男女に処遇差があると回答している。原子力学会は、男女の意識差が大きい。技術者、研究者に女性が少ない理由および指導的地位に女性の比率が低い理由のトップは、「家庭と仕事の両立が困難」：これらの結果を今後の活動方針を立てる上で、参考にしていく。

4. 2005年5月29日：内閣府男女共同参画局による男女共同参画基本計画改訂についての公聴会への出席(場所：福岡県春日市クローバープラザ)

男女共同参画基本計画改定・「中間整理」についての説明を専門委員から受け、当日配布された資料を複写して他のWG委員にも回覧することで、中間整理のポイントを理解し、今後のWGの活動に活かせるようにした。また、質疑応答を聞くことで、一般の人が男女共同参画についてどのような意見や疑問、または、意識を持っているかについての情報収集を行った。

5. 2005年9月13日：秋の年会での当学会初の男女共同参画シンポジウム開催

「原子力分野における男女共同参画社会を目指して」がテーマ。江原由美子東京都立大学社会学部教授による講演「社会活力創造のための男女共同参画」とパネルディスカッション「男女が共に能力を発揮できる社会の実現のために」を行い、学会員への問題提起と討論参加の場を提供した。

6. 2005年3月~9月：第3回連絡会シンポジウムへの協力

連絡会シンポジウムの企画運営について、幹事学会として、積極的に、参画した。

以上

日本女性科学者の会 活動報告

科学・技術分野における男女共同参画推進のために

本会は、「女性科学者の友好を深め各研究分野の知識交換を図り、女性研究者の地位の向上を目指すと共に、世界平和に貢献すること」を目的として、1958年4月に平塚らいてう女史、朝永振一郎博士などの支援を受けて、「日本婦人科学者の会」として設立され、1996年6月に現在の「日本女性科学者の会」に改称し活動している。会員は、理学・工学（数学、物理学、生物学、化学、地学等）、医学、薬学、農学、家政学等の分野で活躍する男女科学・技術研究者です。

最近の活動

1. シンポジウム「心の問題を科学する - ヒトはなぜ傷付くのか?」
(第3回日本女性科学者の会 学術大会 2004.11.21)
2. 文部科学省生涯学習政策局委託事業：平成16年度男女の家庭・地域生活充実支援事業
シンポジウム「科学・技術分野で女性研究者が活躍するための四つの条件」
- 男女共同参画の実現に向けて - (日本女性科学者の会・和光市教育委員会・独立行政法人理化学研究所：女性の社会参画支援促進事業実行委員会主催 2005.3.26)
このシンポジウムで下記の提言をまとめ、日本学術会議・文部科学省学術政策局・内閣府男女共同参画局などに報告書を提出した。

[提言：科学・技術創造立国を標榜するわが国が、国際競争力向上と経済社会活性化を実現するためには、科学・技術分野で活躍する女性の能力を十分に活かして、その社会進出を支援する男女共同参画活動の促進が必須といえる。

その第一歩として、先端的な男女共同参画環境を実現するために”男女共同参画モデル地区”の設置を提案する。活動の末端への浸透を図り制度の適正な運営を保証するため、当該区には、男女共同参画コーディネーターを配置するよう要望する。男女共同参画コーディネーターは、研究環境改善に必要な政策や方針を研究者と共に考え決定し、情報収集に努め、支援事業と研究活動を両立するのが難しい研究者等への支援事業活動をもサポートする。

男女共同参画モデル地区は、以下に掲げる4項目の実現に向け、科学界と日本への貢献を明確にした男女共同参画活動を展開する。

管理職の意識改革、女性研究者の意識改革のための支援策を構築・実施する。
各職種別の明瞭な評価基準を設定し、適正に評価されるシステムを構築する。
研究者への育児支援策の徹底、研究者間のネットワーク環境整備およびメンター制への支援を行う。

女性研究者の基本的人権を尊重した雇用・育成を促進するために、大学・研究機関の女性研究者割合が一定（女子大学院生在学数に同等）比率を超えた場合、その機関を男女共同参画モデル地域と定める。

上記四項目実現のための特別交付金・予算措置を講じることを提案・要請する。]

4. 男女共同参画学協会連絡会共催 平成17年度ヌエック(国立女性教育会館)公開シンポジウム
「女子高校生夏の学校 ~科学・技術者のたまごたちへ~」(平成17年8月22-23日)
本会はアトラクションの部で、「キュリー夫人の理科教室 紙芝居と実験ショー」に参加。
3. シンポジウム「新たな未来に向かって」科学技術と女性 - 最前線の群像と科学像 -
(国立女性教育会館 男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム 2005.8.26)
1. 健康な身体をつくる“生きた食事と生きた薬”、2. 食の“安全と安心”、3. 生命と生活を支える“太陽光と人工光”、4. 寺田寅彦が示唆した“しなやかな科学”。

本会会員によるこのシンポジウムは、科学・技術リテラシーを日本に根付かせるための普及活動の一環です。

(文責 佐々木政子)

日本数学会 男女共同参画社会推進委員会の活動

The Mathematical Society of Japan

日本数学会会員数 約 5000 人 うち女性 約 250 人 (5%)

理事 12 名 うち女性 1 名

日本数学会賞のうち最高の賞と見なされる春季賞、秋季賞

2005 年 8 月現在で 55 人受賞, うち女性 1 名 (約 1.82%)

日本数学会建部賞 (若手に贈られる賞)

2005 年 8 月現在で 82 名受賞, うち女性 9 名 (約 11.0%)

旧国立 10 大学の数学系の大学院研究科 (2004 年 9 月現在)

正教授 193 名 うち女性 3 名 (約 1.55%)

常勤教員総数 494 名 うち女性 13 名 (約 2.63%)

前期課程大学院生在籍数 749 名 うち女性 55 名 (約 7.34%)

後期課程大学院生在籍数 333 名 うち女性 25 名 (約 7.51%)

日本数学会男女共同参画社会推進の今迄のあゆみ

2002 年 7 月 男女共同参画社会推進委員会の前身である WG 委員会設立

2004 年 9 月 4 日 男女共同参画社会推進委員会の設置: 日本数学会理事会決定

2004 年 9 月 19 日 日本数学会評議員会承認

日本数学会男女共同参画社会推進委員会の活動

1) 男女共同参画推進にむけての学会における懇談会の開催

2) 春季・秋季の年会、総合分科会における保育室設置

2003 年春季年会 (東京大学): 年会期間中の保育室ニーズアンケート実施の結果、春季年会、秋季総合分科会期間中の保育室には利用者があると判断。

2003 年秋季 (千葉大学): 会場の近くの保育室を紹介, 数学会より経済的補助。

2004 年春季 (筑波大学): 会場内に保育室を設置。数学会より経済的補助。

2004 年秋季 (北海道大学): 会場の近くの保育室を紹介, 数学会より経済的補助。

2004 年 9 月 19 日: 以後原則として学会会場の大学内に保育室を設置、経済的補助を行う

事を盛り込んだ男女共同参画社会推進委員会の内規が日本数学会評議員に承認される。

2005 年春季 (日本大学理工学部): 会場内に保育室を設置。

2003 年秋季 (岡山大学): 会場内に保育室を設置予定。

—以上 文責 日本数学会男女共同参画社会推進委員会—



日本生物物理学会

男女共同参画活動報告

男女共同参画・若手問題検討委員会

日本生物物理学会は1960年12月10日に設立された学会で、物理学と生物学を融合することによって、自然科学の究極の目的のひとつである生命現象の解明を目指す研究者の集まりです。現在は、会員数約3500名、邦文誌「生物物理」、欧文誌「BIOPHYSICS」の発行と、年1回の学術集会の主催が主な活動です。

男女共同参画に関する主な活動

日本生物物理学会では、1999年から運営委員の中に女性会員育成担当(2名)を置き、同年の年会から年会保育室を設置、2001年からは年会の際に「女性会員を増やす会」を開催するなどの活動を行ってきました。2002年には男女共同参画学協会連絡会の設立に参加しました。2004年からは、女性会員育成担当委員に代わり、8名のメンバーから成る「男女共同参画・若手問題検討委員会」を発足させ、現在まで、様々な活動を行っています。

最近1年間の活動

2004年12月に行われた年会で、学会として初めての男女共同参画問題に関するシンポジウム「男女共同参画問題シンポジウム - 多様化する研究者の理想像を目指して - 」を開催しました。会場の定員200名を超える参加があり、会員の関心の高さを示しています。このシンポジウムでの話題と、シンポジウムの際に実施したアンケート調査の結果^{*1}から、2005年3月には、提言「科学技術研究者に適した男女共同参画制度の整備について」^{*2}をまとめました。提言は次の通りです。

提言1: 女性の雇用を促進するための数値目標を設定すること。

提言2: 育児や介護中に教育・研究活動を続ける科学技術研究者を支援するための「短時間勤務選択制度」を設定し、当該研究・教育組織に対して、その期間の「業務補助」を充実させること。

提言3: 育児や介護中あるいは終了後の科学技術研究者のための、様々な支援制度を設けること。例えば、十分な保育所の設置、育児支援ならびに育児からの復帰支援研究基金の充実など。

また、この提言と分子生物学会からの提言を基に共同で提言を行いました。

2005年11月の年会では、「男女参画シンポジウム より良い研究活動支援へむけて」を開催予定です。このシンポジウムでは、上の提言に至った経緯と、その後どのように実現に向かうのかを報告していく予定です。

^{*1} (http://www.biophys.jp/NEWS/ETC_NEWS/2005061101.pdf)

^{*2} (http://www.biophys.jp/NEWS/ETC_NEWS/2005061102.pdf)

日本生理学会の男女共同参画活動報告

この1年間の活動として以下の2つのことを新たに実施した。

1) アドバイザー制の実施

キャリア形成や研究を続ける上での悩みに対し、会員のアドバイザーが助言する「アドバイザー制度」を設立した。これは、相談者に対して助言を与え、成長を見守る「メンター」システムを参考とし、特に周辺に相談できる人がいない会員（男女問わず）を支援するもので、以下のようにして実施。案内は学会ホームページ上に掲載。2月実施以来現在までの相談件数は1件（相談者は女性、将来のポジションに関することなど）。

- I) 相談は電子メールで受け付ける。相談したい内容を窓口委員まで送信し、その際、助言を求めたいアドバイザーを2名まで希望することができる。特に指定がなければ、窓口委員がアドバイザーを選定する。アドバイザーは、窓口委員を介して、電子メールで返答する。また、助言は、通常一件の相談について数回のやり取りで終了するものとする。相談、回答とも原則記名で行う。
- II) 相談・助言に応じる内容は、大学院への進学について / 学位取得後の進路 / 任期制ポジション / 外国留学 / 研究と教育の関わり・両立 / 基礎研究と臨床の関わり / 生活(子育てなど)と研究の両立 / キャリアアップについて / 成果発表に関すること / 研究費取得について など。具体的な就職の世話や論文添削などはしない。
- III) アドバイザーは当面男女共同参画推進委員会委員が担当する。

2) 生理学会大会中の5月20日に、男女共同参画推進委員会企画シンポジウム「男女共同参画の過去、現在、そして未来へー その1」を、次のような内容で開催した。

第一部 「女性研究者のルーツ」

1-1 黎明期の女性研究者 理化学研究所の女性研究者を中心として
並木和子先生（杉山女学園大学名誉教授）

1-2 女性医師の働く環境

山本蒔子先生（東北大学大学院 腎・高血圧・内分泌科非常勤講師）

第二部 「男女共同参画の今 女性研究者を女房にもってー」

小田洋一先生（名古屋大学大学院理学研究科生命理学、教授）

高井章先生（旭川医科大学生理学第一、教授）

（文責 水村和枝）

日本蛋白質科学会 Protein Science Society of Japan

担当委員: 後藤祐児(大阪大学・蛋白質研究所)、長野希美(産総研、さきがけ)

日本蛋白質科学会は、2001年4月に設立した会員約1000名の学会です。男女共同参画学協会連絡会には、2003年11月に参加しました。ワーキンググループ(担当委員に加え、山縣ゆり子(熊本大・薬学)、田口英樹(東大・新領域、さきがけ)、白木賢太郎(筑波大・物理工学))で、年会を中心とした活動に取り組んでいます。昨年度は、学会センター破産の影響で、活動のための特別予算を全て失うという災難を被りました。しかし、今年度の年会と年会時のワークショップは無事実施することができました。また、年会時に、学会としてははじめての試みである保育所設置を実施しました。1年間の主な活動を以下に報告します。

1. 第5回 日本蛋白質科学会年会での男女共同参画ワークショップ

「動きはじめた男女共同参画 現状認識と今後へ向けての提言」2005年7月1日、福岡国際会議場

世話人: 蛋白質科学会男女共同参画ワーキンググループ

- 1) 現状認識: 学協会アンケートで見る男女共同参画社会の現実(長野、田口、山縣)
- 2) 今後: 具体的な提言の紹介 - 分子生物学会、生物物理学会などの提言を中心に - (田口)
- 3) まとめと議論 (後藤)

特徴としては今回のWSでは特に外部からの講演をお願いせず、学会の男女共同参画ワーキンググループのメンバーだけでWSを行ったことです。その趣旨は、主に啓発活動です。多くの学会員たちは、学協会がまとめたアンケートの集計結果を知りません。このアンケートはこれまで漠然と感じていた事柄が約2万人という多くの研究者たちの声を集めてデータとなって目の前に示された意義深いものです。そこで、本ワークショップでは、データを重視する研究者たちに、「ファクト」を紹介することを第一の目的に据えました。

WSでは、長野さんが学協会アンケート結果「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像 男女共同参画推進のために」、田口が「平成17年度版男女共同参画白書」のダイジェストを紹介しました。また、本年会より学会会場に保育室を設置しましたので、それに関して世話人の山縣さんが保育室設置のいきさつ、使用状況などが報告されました。その後、最近各学会から提出されてきた具体的な提言を紹介しました(なお、学協会アンケートとりまとめ担当の近藤高志さん、分子生物学会の伊藤啓さん、生物物理学会の三木邦夫さんなどから資料をいただき、改変して発表にて使わせていただきました。ここに感謝いたします)。

WSは時間帯がちょうどポスターセッションに重なっていたため、開始時には参加者が非常に少なかったのですが、後藤さんによるポスター会場でのWSへの参加呼びかけが功を奏して、最終的には50名以上が集まってくれました。最後のディスカッションでも5、6名の方が貴重な意見を話してくれて、今後の活動の参考になりました。(文責: 田口)

2. 保育所の設置

世話人: 山縣ゆり子

上記の年会で保育所を設置しました。はじめての試みでしたが、利用者は2名でした。事前の宣伝が不十分であったように思われます。利用者の数に関わらず、今後共、設置したいと思います。

動物学会の取り組み(活動報告)

動物学会男女共同参画委員会

鷲谷 節子、中辻 孝子

動物学会では、「女性研究者の研究を奨励するための賞」、「動物学会女性研究者懇談会」、「研究者の生活をサポートするための情報交換ネットワーク」、「アンケート」、「高校生の研究発表をととした学会参加」、「子どもや市民との交流:動物ひろば」、等の取り組みをしております。

女性学会員を対象とし、その研究を奨励するための賞(現 OM 賞)は2001年度に設立され、女性研究者を大いに元気付け励まし続けております。また、女性研究者を取りまく諸問題の解決や女性研究者の育成に積極的に貢献することを提案したいと考え、2001年度大会期間中に第1回「動物学会女性研究者懇談会」を開催しました。2004年度までの開催で、のべ250名の男女両会員が参加し、活発な討論がなされてきました。女性が仕事を続けていくためには「男性も家庭と仕事を両立できる」ことが望ましいことが男女双方から指摘され、「研究者の生活をサポートする情報がほしい」との多くの声が寄せられています。2004年度からは、動物学会男女共同参画委員会が主催者となり、今年は、男女共同参画社会への第一歩「キャリアの継続-多様なかたち」と題した関連集会を企画し、第5回「動物学会女性研究者懇談会」を開催しました。

2005年1月には、メーリングリストが立ち上がりました。「研究者が抱える問題や生活をサポートする情報交換ネットワークづくり」の第一歩であり、動物学会男女共同参画委員会と学会事務局とで管理運用しています。開始後すぐ、動物学会長 浅島 誠氏が「大学と男女共同参画施設(保育所)について」と題した東京大学の情報を寄せられ、保育所などが全国の大学、研究所につくられることは、女性研究者のサポートはもちろん、男性が育児に積極的に関与する必要を感じられるようになり、地元住民の入園を可能にすると地域と大学との良好な交流も生まれると指摘されていました。これまでのメーリングリスト登録者は約50名で、30の情報交換がながれております。どのような情報を共有するのがベストかは、メーリングリスト交換の流れの中で、引き続き考えていきたいです。

「高校生の研究発表をととした学会参加」や「子どもや市民との交流:動物ひろば」の取り組みは、次世代の若者が科学や研究に興味を抱き、研究者と身近に接する良い機会を提供しております。

日本動物学会は、女性会員の占める割合が21%(2005年5月)と国内の理工系学会の中では最も高いグループに属しており、男女共同参画社会への積極的な役割を担う様、さらなる取り組みを繋いでいきたいと思っております。

日本バイオイメージング学会

~ Bioimaging Society ~

学会の紹介

日本バイオイメージング学会は1991年10月に設立された、国内外で唯一のバイオイメージングを対象とした若い学会であり、新しいイメージング法の開発や生物学分野への応用に関する理論、バイオイメージング法を用いた研究などを対象としています。本学会は、工学・光学から生物学・医学も含めた極めて幅広い分野の研究領域を基盤とし、バイオイメージングに関わるあらゆる研究の交流の場となっている、非常に学際性の高い学会です。また、バイオイメージングを駆使した独創的、先端的研究への発展にも貢献しています。

学会の活動として、邦文誌「バイオイメージング」並びに国際英文誌「Bioimages」を1993年より創刊し、季刊(年4号)で発行しています。英文誌は今年度からJ-STAGEを利用したオンラインジャーナル化を決定し、具体的準備を進めています。また、バイオイメージングの理論と具体的手技を実習する「バイオイメージング学会講習会」も実施し、バイオイメージング技術の普及にも努めています。

会員数は2005年5月末現在、会員総数384名ですが、その内訳は会員(名誉・賛助・一般会員)数313名(うち女性37名 比率12%)、学生会員数71名(うち女性17名 比率24%)となっています。女性比率は学協会の中で平均的値であり、小規模な学会ながら特に女性が少ない訳ではありません。また、学生会員の女性比率は会員のそれと比較すると2倍となっており、バイオイメージングに興味をもって頑張り始めた女子学生達の健やかな成長に期待したいところです。

男女共同参画への取り組み

2005年2月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟すると共に、担当委員2名(洲崎悦子(広島大学); 朽津和幸(東京理科大学))が選任され、活動を開始しました。今年度は、

- 1) 男女共同参画、および、学協会連絡会の経緯・主旨・活動をまず把握する。
- 2) 学会内に男女共同参画についての情報を提供する。

ということを中心目標として学会としての活動をスタートさせました。

これまでの活動：

- 1) 邦文誌「バイオイメージング」で男女共同参画について紹介
・2005年14巻1号 p13-17：

表題「男女共同参画学協会連絡会」に正式加盟しました！

- ・2005年14巻2号 印刷中：

表題 女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～にポスター参加しました！

- 2) 学会ホームページで男女共同参加について掲載

- ・2005年5月23日：男女共同参画シリーズ 第1回「男女共同参画学協会連絡会」

- ・2005年5月23日：「平成17年度チャレンジ・キャンペーン～女子学生・生徒の理工系分野への選択～」

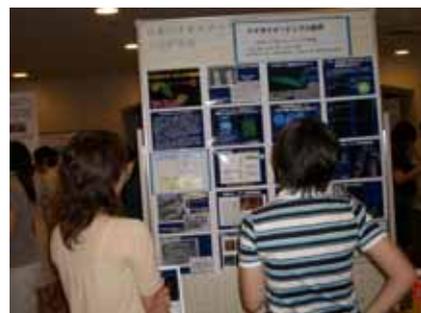
- ・2005年8月9日：女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～

- ・2005年8月26日：女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～にポスター参加！

- 3) 女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～にポスター参加

- 4) 2005年第14回日本バイオイメージング学会大会(10月26-28日 東京大学)において、「男女共同参画紹介コーナー」を設ける予定(連絡会のアンケート冊子「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像—男女共同参画推進のために—」(平成16年3月発行)を配布)

今後は、学会内へ男女共同参画についての情報を提供し続けるとともに、本学会オリジナルな男女共同参画活動について企画していきたいと話合っています。



女子高校生夏の学校ポスター参加風景

発生生物学会からの報告

男女共同参画学協会連絡会運営委員
中辻孝子

日本発生生物学会は1968年に創設され、2005年6月現在約1550名の学会員が登録されております。女性会員の占める割合が約21%に上り、女性学生会員だけをみると約28%です。この数値は、発生生物学会における女性会員の占める割合が国内の理工系学会の中では最も高いグループに属することを示しております。ちなみに、各国の女性研究者の比率は、アメリカ 32.5%、イギリス 26%、ドイツ 15.5%、そして日本は 11.6%です。

本学会では 国際誌 Development Growth & Differentiation を刊行し、また年1回の大会を開催し、さらに、国際発生生物学会の構成学会として国際的にも活動するなかで、女性会員の各々の研究分野での活躍が顕著です。

2002年からは、大会期間中に託児所を設けるなどの女性会員へのサポートを進めております。女性が仕事をつづけていくためには、男女双方が家庭などのプライベートな生活と仕事の両立ができる社会が望まれています。女性研究者を育成し、増やすシステムづくりも提案され実施に移りつつあります。本学会長 浅島 誠氏が談話を寄せられ、保育所などの男女共同参画施設が全国の大学や研究所につくられることは、女性研究者のサポートはもちろん、男性が育児に積極的に関与する必要を感じられるようになり、地元住民の入園を可能にすると地域と大学および研究所との良好な交流も生まれると指摘されています。

2005年7月23、24日に、「子どものゆめサイエンス セルフエスタ 2005 in 東京」が開催され、発生生物学会からも熱心な取り組みがなされました。次世代が科学や研究に夢を抱き、研究者と親しく接する良い機会となりました。

日本発生生物学会における男女共同参画社会への本格的なとりくみはこれからです。より多くの学会員が男女共同参画社会を意識し、多様な取り組みに積極的に参加できるよう、様々なかたちでよびかけをおこなっていきたいと思います。



日本物理学会のこの1年 - 行動の時 -

2005年は、物理分野にとって記念の年であると同時に、「科学技術基本計画」、「男女共同参画基本計画」の2つの基本計画が策定される節目の年でもある。本委員会では、2つの基本計画で女性科学者・技術者の育成、登用、環境改善が推進されるよう、男女共同参画学協会連絡会と連携して提言や省庁への要請活動を行うとともに、応用物理学会と協力して物理分野における国際協力(Women in Physics)を強化した。さらに女子高校生の理工系進学促進に向けた新しい取組を展開した。

2002年5月に発足した男女共同参画推進委員会は3期目に入り、2004年9月に委員長を坂東昌子から鳥養映子に引継いだ。前身のパリ会議準備委員会(2001年5月発足、北原和夫委員長)から数えると4年半の活動実績となる。昨9月に、委員12名(男女6名ずつ)中9名が交替し、22名のネットコメンテータ(ネット上で情報を共有し、意見交換や活動に参加する委員)とともに、事務局の協力のもとに活動を進めている。

本学会の女性会員比率は僅か4%。入門(大学、大学院への入進学)、就職(ポストドクから常勤職へ)、昇進(教授、管理職へ)の3つの段階で、あたかも女性の進出を阻む壁があるかのように女性比率が低下して行く。これらの壁の内因・外因をつきとめ、どう解決すべきか? 昨年9月の新体制の発足にあたり、本委員会が取組むべき課題について意見交換を行ったところ、育児支援、ポストドク問題、研究助成制度、メンター制度、リーダー養成、物理好き少女育成など、優先とする課題はそれぞれに異なっても、多くの委員が、「議論を重ねるより行動すべき時」という思いを強く抱いていることがわかった。

一方、日本物理学会理事会は、財政状態を改善するため、2005年予算から大きな財政改革に踏みきった。委員会開催も半減せざるを得ない予算の中で、研究活動に、組織運営に、育児にと超多忙な委員達とともに、どうやって行動を起すのか・・・これが新委員会の直面した大きな課題であった。

そのひとつの解は、提言や省庁への要請など、学協会連絡会や他学会と協力できる活動は協調して行うことであった。さらに、国際物理年にちなんだ国際協力や、理工系進学促進等の新事業を展開するため、競争資金への応募や、協力機関の掘り起こしに力を注いだ。この1年間に委員会が関わった活動は次の通り。

1. 日本物理学会シンポジウム「男女共同参画:科学技術基本計画策定の機会に」 (2005年3月、東京理科大学)。企画:井上順一郎、肥山詠美子。講演:近藤高志、登谷美穂子、黒田玲子、家泰弘、鳥養、笹尾真実子、潮田資勝。参加者約40名。科学技術基本計画策定の背景、経緯、要点を学び、学協会連絡会アンケート調査でわかった問題点を共有し、具体的問題としてポストドクへの「科研費申請枠の拡大」について、問題解決にむけた意見交換を行った。

2. 国際協力の推進: 国際会議、集会において話題提供、招待講演等を行い、統計調査に基づく日本の活動を紹介すると共に、問題解決への道を探った。特にアジアとの連携を深めた。

(1) Asia Pacific Physics Conference (Oct. 2004, Hanoi) 円卓会議 Women in Physics, 企画・座長:福山秀敏, 話題提供:鳥養 “Progress Report of Efforts for Gender Equality in Japan”. 参加者約70名。

(2) Physics for Tomorrow in Asia-Summit of Physical Societies at Pan Pacific Region-Launch Conference of the International Year of Physics in Asia (Jan. 2005, KaoShiung) 円卓会議 Women in Physics, 話題提供: 田島節子 “Problems for Women Physicists in Japan”. 12か国から20人余(各国会長ら)。

(3) Judy Franz(IUPAP 事務局長)を囲む会 (Apr. 2005, 六本木) 企画:坂東, 村尾美緒。参加者約30名。

(4) IUPAP International Conference on Women in Physics (May 2005, Rio de Janeiro) 安居院あかね, 谷田聖, 鳥養。応用物理学会小館香椎子先生をリーダーに、両学会から6名(男女各3)が参加。円卓会議 Research Funding and Women in Physics 招待講演, ポスター発表, グループディスカッションを行い、「統計調査」「男女ともに共同参画推進に取組む」日本を印象づけた。42か国から約150名が参加。

(5) Second Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the APS and JPS (Sep. 2005, Hawaii) 円卓会議 Women in Physics 話題提供: 肥山。

3. 女子高校生の理工系進学促進事業「女子高校生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」 (2005年8月, 国立女性教育会館)。同会館, 科学技術振興機構の組織的支援のもと, 日本学術会議, 本学協会連絡らと新企画を上げた。参加者64名。企画運営:平野琢也, 田島, 伊藤厚子, 鳥養。

4. その他

(1) 男女共同参画学協会連絡会アンケート報告書英訳版作成:平野他18名, 新委員会が総力で取組んだ最初の事業であった。 <http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/2003enquete/PDF/EPMEWSEreport.pdf>。

(2) ウェブフォーラムの開設:安居院。ネット上の情報・意見交換を活性化するために試験運用中。非公開。

(3) 同上2周年記念シンポジウム報告書作成:伊東恭子他。

(4) 競争資金応募結果:学術振興会, 井上財団から, 国際研究集会派遣(各1名)助成を頂いた。科研費, 日米センターへの大型助成申請は不採択。

付記:坂東昌子前委員長が第62期会長(平成18年9月～平成19年8月)に選出された。(文責:鳥養)

日本分子生物学会第3期活動報告

日本分子生物学会の今期の活動としては、1. 提言の策定、2. 年会シンポジウム、3. 学協会連絡会との諸連携活動の3つをあげることができる。また、今期後半、2005年5月に、これまで会長の諮問機関であった共同参画ワーキンググループが、正式に学会の委員会となったことを明記したい。以下、主な活動の要約を述べる。

1. 提言の策定、PR活動と関係機関への提出

学協会連絡会の提言策定に刺激を受けて、分子生物学会の提言策定委員会を中心として、以下の3つの提言を策定した。特に(3)「ライフサイエンスの分野における男女共同参画の推進に関する提言」の策定に先立っては、2004年12月中旬より2週間程度にわたってWEBを通じ、広く一般会員の意見を求め、それらを具体的提案として提言の項目や内容に反映させた。

【日本分子生物学会・3つの提言】

- (1) 研究助成への申請枠拡大に関する提言、
- (2) 子育て支援型研究員制度の発足に関する提言、
- (3) ライフサイエンスの分野における男女共同参画の推進に関する提言、

これらの提言は、策定後、いずれも評議員会において、日本分子生物学会の正式の提言として認められ、学会ホームページ上に掲載された。

(http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/kyodosankaku/kyosank_teigenkeisai.htm, http://wwwsoc.nii.ac.jp/mbsj/kyosank_teian.htm)。また、学協会連絡会2周年記念シンポジウム、日本生化学会年会ラウンドテーブル・デイスカッション、学術会議シンポジウム等、共同参画関連の会議でアピールするとともに、2004年4月には、内閣府、文部科学省等の政府機関に手交した。これらの提言の具体的内容は文部科学省の平成18年度予算案にも反映されたであろうことがうかがえる。会員からの意見のいくつかが具体的提案として生かされたように見えることは喜ばしい限りである。

2. 第3回男女共同参画年会シンポジウム「女性研究者が研究グループのリーダーになるには？」

2004年12月11日、神戸国際会議場D会場、(分生男女共同参画WG)

第3回年会シンポジウムでは、独立して研究グループを率いるリーダー、いわゆるPI(Principal Investigator)に女性が少ないという問題を取り上げた。現在、分子生物学の分野では、学部生〜ポストドクの階層では女性比率は3割に近い。一方、女性教員の比率は、助手・助教授・教授と階層が上がるにつれ大きく低下する。その原因を意識と制度の面から探ることを目的とした企画であった。また今回は、はじめて内閣府から塩満典子男女共同参画局・参事官をお迎えして行政の取り組みとそのねらいについても講演をお願いした。ここでの活発な議論が提言(3)の作成に結びついたと言える。

3. 学協会連絡会との諸連携活動

- (1) 分子生物学会会員における男女共同参画実態調査

連絡会の大規模アンケートのなかから、分子生物学会員2,800余名の結果を抜き出し解析した。その結果、以下のような会員の実態が浮かび上がった。① 任期つき常勤職の割合が他の学会に比べ大きい。

② 結婚年齢・子供の有無の男女格差は、社会全体や他の学会に比べて大きい。特にその差は大学で大きい。③ 職場にいる時間は、女性の方が少なく、結婚・子供により男女とも減少する。ただし、その減り方の男女差は小さい。④ 研究費の配分は、男女格差が大きい。ただし、その格差は未婚の研究者で比べると解消する。⑤ 子供を持つことは、35 - 45歳までの女性にとって、昇進の遅れをもたらす。⑥ P1になる可能性は、学歴・年齢・家庭状況を調整してもなお女性の方が低い。この結果は、共同参画活動の今後の方向性の一つを指し示すと考えられる。

(2) 学協会・女性比率の調査

学協会連絡会の全面的協力を得て、各学会の一般会員、学生会員における女性比率を算出し、理学生物・医薬系、理学非生物系、工学系等の分野ごとの女性比率における特徴を明らかにした。その内容は、本資料集に掲載されているので参照のこと。

(3) 女子高校生のためのサマーキャンプ

公立大学教員の会員と理化学研究所研究員の会員の協力を得て、企画やポスター発表に参加した。よい刺激をうけられ、楽しかったとのことである。今後も協力する方向で考えたい。

日本森林学会 男女共同参画 活動報告

これまでの取り組み

日本森林学会では、2001年に有志による「子供用部屋（保育者なし）」が大会委員会の協力を得て設置されて以来、毎年、大会運営委員会が運営する「保育室（保育者有り）」が設置されている。

男女共同参画学協会連絡会への正式加盟は2004年1月からである。学会として、より積極的な取り組みを行うために、2004年12月に男女共同参画担当理事が常任理事に変更され、あわせて担当主事がおかれた。

現在の活動

連絡会の実施したアンケートに参加していなかったため、森林学会における男女共同参画に関する実態は不明である。そこでまず、実態把握を目的として、森林学会会員および森林科学関係者にアンケートを実施することになり、理事2名をふくむ7名からなるワーキンググループを発足した。現在、森林学会ホームページ上でアンケートを行っている。アンケート結果は、2006年4月の年次大会のワークショップで報告する予定である。

地盤工学会

The Japanese Geotechnical Society (<http://www.jiban.or.jp/>)

1. 地盤工学会とは？

“ 私たち人類にとって、生活の活動のベースは地球です。”

その地球が永遠に豊かな大地であり続けるために、地盤工学の担う役割がますます重要になってきています。地盤工学は、基礎科学や応用力学のいくつもの分野にわたる総合的な学問体系により形成され、地盤に関連した広範囲なジャンルの様々な問題解決に対処してきました。地盤工学会は、社会資本整備に大きく関与する地盤工学のさらなる向上と発展に貢献しつつ、より快適な生活環境を創造。さらに充実した社会活動の営みに必要な社会基盤の建設、整備などに関わる諸事業を強力にサポートすることを目指し、さまざまな活動を展開しています。

地盤工学会は、1949年に日本土質基礎工学委員会として発会し、1954年に土質工学会として設立、1995年に社団法人地盤工学会と改名しました。2005年4月時点での総会員数は10,697人、うち女性正会員128人、女性学生会員74人で、女性比率1.9%です。

2. 男女共同参画に関する活動状況

男女共同参画に関する活動は、企画部(男女共同参画担当)を中心に行っています。平成17年度は、第40回地盤工学研究発表会にて「男女共同参画社会における地盤工学会の今後の活動」と題したディスカッション・セッションを開催しました。

日時：平成17年7月5日(火) 場所：第3会場(函館国際ホテル2F「末広」)

主なプログラム：

特別講演 「性差とジェンダー：男女共同参画社会に向けて」

早稲田大学 教授 長谷川眞理子(日本動物行動学会会長)

「ワーク/ライフバランスを実現する男女共同参画」

東芝 技監 土井美和子(電子情報通信学会)

男女共同参画学協会連絡会の実施したアンケート分析の紹介

パネル・ディスカッション：『男女共同参画を考える～意外と身近な話題』

〔パネリスト〕：加倉井正昭(東京ソイルリサーチ、前 竹中工務店技術研究所)

小峯秀雄(茨城大学)、土田孝(広島大学)、井筒庸雄(電源開発)、小松登志子(埼玉大学)、佐藤厚子(北海道開発土木研究所)、高橋笑美子(東工大)

〔オブザーバー〕：長谷川眞理子(早稲田大学)、土井美和子(東芝)

DSの主旨：

DSでは地盤工学会が今後この問題にどう取り組むべきか、分析結果から垣間見る地盤工学会会員像や男女共同参画に関わる問題を紹介し、いろいろな視点から検討するためのキックオフを行った。また、他分野からの技術・研究者を招き、自然科学・工学分野での「男女共同参画」の現況をご紹介頂いた。

3. 今後の活動予定

地盤工学会では初めの試みである研究発表会でのディスカッション・セッションでは、予定時間を超過する活発で多彩な意見交換が行われた。これにより、男女共同参画社会の形成への意識の定着が求められていることを再認識し、今後の学会運営に女性会員の活躍を期待する声が高まってきている。

日本金属学会における男女共同参画活動

The Japan Institute of Metals

1. 日本金属学会の紹介

社団法人日本金属学会は、『金属に関する理論ならびに工業の進歩発達をはかること』を目的として、昭和12年に発足し、春秋の定期講演大会をはじめとする月刊学術論文誌の発行、会員の情報交換、啓蒙を目的とした学会報やシンポジウム、あるいはセミナー等多くの事業を行ってきたが、急速に進展する時代の要請にともない近年は金属のみならず、超電導材料、電子材料、磁気材料、セラミックス等のいわゆる先端材料の領域まで研究スパンが広範囲に拡がりつつある。基礎研究から応用研究への一貫した研究開発の進展を目標として、大学をはじめ国立のおよび各種研究機関の、あるいは広範な企業の研究者が日夜研鑽を重ね、その成果が講演大会や学会報、学会論文誌そして英文論文誌等で広く国内外に報告されている。これらのほか先進的かつタイムリーなトピックスのシンポジウムやセミナー、国際会議などが多く企画実施され、常に斯界の世界をリードする学会として活動している。

代表者：会長 早稲田 嘉夫

会員数：正員 約 7000 名、学生員 約 1000 名

連絡先：金属学会事務局(〒980-8544)仙台市青葉区一番町一丁目 14 番 32 号フライハイトビル 2F

TEL: (022) 223-3685, FAX: (022) 223-6312, E-mail: secgnl@jim.or.jp

ホームページ：http://www.soc.nii.ac.jp/jim/

2. 男女共同参画に関する活動

金属学会で 2003 年 8 月に男女共同参画の現状に関する検討のための WG が結成され、10 月に男女共同参画検討委員会としての活動が始まった。1 年目は、学協会連絡会が 2003 年 8 月 20 日～11 月 10 日に実施したアンケートへの参加、2004 年春の学会期間中、材料工学教育研究集会で「男女共同参画社会の実現にむけて」というシンポジウムの開催、同年 9 月末の金属学会秋季大会における一般セッションでの講演(アンケート結果の紹介など)を行い、同年 11 月には、金属学会報「まてりあ」において小特集「男女共同参画社会に向けて」を企画した。2 年目である 2004 年秋から 2005 年秋にかけては、大きな取り組みとして託児室設置を行った。まず、2005 年春の学会では、大坪久子先生(東大)より日本分子生物学会の年会保育室について、束村博子先生(名大)より名古屋大学の学内保育所設置活動について、松岡委員より日本物理学会における託児室設置についてご講演をいただき、学会期間中の託児室設置にむけ、運営方法や注意点などについて勉強を行った。同時に春の学会期間中に開催された分科会運営委員会、理事会において、託児室設置のための要望書を提出し、正式に了承された。これを受け、2005 年秋の学会(東広島)での託児室設置に向けて、松岡委員を中心に具体的な準備に取りかかっている。これらの活動内容は、金属学会 HP 内の男女共同参画委員会 HP にて全会員に提示している。

3. 日本金属学会男女共同参画検討委員会委員

黒田光太郎(名大工)(委員長)、米永一郎(東北大金研)(幹事)、御手洗容子(物材機構)(幹事)、吉原美知子(横浜国大)、松岡 由貴(奈良女子大)、今野豊彦(大阪府大工)、山下孝子(JFE)、木村薫(東大新領域)、楠美智子(JFCC)、後藤孝(東北大金研)、加賀山朋子(阪大極限)、谷脇雅文(高知工科大)

女性技術者フォーラム

日本女性技術者フォーラムは、女性技術者間のネットワーク構築により女性技術者が充分能力を發揮できる場を創り社会的貢献を高めることを目的として、1992年社日本工業技術振興協会の一委員会として発足しました。現在は独立し、任意団体として活動しています。

わが国では、科学技術の専門化・高度化による産業構造の変革の時代を迎え、技術者人口の流動化、技術職種の多様化、職域の多角化が進んでおります。特に、理工系技術者への需要が増大し、その中で多数の女性技術者が重要な貢献をしてきました。また、男女雇用機会均等法施行以来、各企業における女性技術者人材に対する就労の機会も拡大しております。しかし、女性技術者の絶対数は少なく、必ずしもそれぞれの専門性が活かされた人材活用がなされている状況とはいえません。

本フォーラムは、各企業や教育・研究機関などでともすれば孤立しがちな女性技術者相互の交流をはかり、情報を発信することによって受信する能力を高め、人材を活性化します。業種業界を横断した研修の場であり、自己啓発の機会を提供します。また、各種調査・研究などを行い、その結果をもとに社会的影響力のある提言を行っております。

1. 活動内容

1-1. 総会：年1回（6月）

1-2. 定例会等の開催：年5回、シンポジウム、見学会等

1-3. 委員会活動

- ・事務局
- ・会計担当：会の会計
- ・会報担当：JWEFニュースの発行
- ・会員担当：会員の要望の取りまとめなど
- ・ITnet 担当：ホームページとメーリングリストの管理
- ・外交担当：女性技術者関連団体との連携、協力

1-4. 部会活動

- ・調査部会：女性技術者対象の調査・報告
- ・懇話会：女性技術者キャリア軌跡の懇話
- ・BL部：Becoming Leadersの輪読会および訳本出版

その他の活動、見学会の様子などは、JWEF ホームページからご覧下さい。一人の会員の希望によって実現した活動もあります。あなたも会員になって、個人ではなかなか実現できない催しを企画してみませんか？

2. 会員について

正会員:出身分野の文系理系を問わず、技術的・科学的職務および研究・開発企画等の職務に携わる男女。

賛助会員:本会の目的に賛同する個人または企業および公的団体。賛助会員は、定例会に2名参加することができますので、社員教育の一環に使うことができます。

3. 会員の専門分野

理学（物理・化学・生化学等）、工学（金属・材料・電気等）、医学、薬学、栄養学、看護学、臨床検査、教育学、情報関連、建築設計、都市開発・都市計画、経営、マーケティング、品質評価、労働・人材開発、国際協力、美術・デザイン等

日本植物学会平成 16 年度活動報告

日本植物学会は、平成 17 年から男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟した。昨年度は、以下のような活動を行った。

(1) 第 3 回女性・若手研究者を支援を考える会の開催

日本植物学会では、大会中に、「女性・若手研究者を支援を考える会」というフリートーキング形式の議論の場を設けている。第 68 回大会中の平成 16 年 9 月 11 日に第 3 回女性・若手研究者を支援を考える会を開催した。男女共同参画に関係した議題としては、女性研究者を支援するために大会中に設置された一時保育施設に関する改善や、女性研究者のキャリアアップを取り上げ議論した。この会は今年度の大会でも引き続き開催し、男女共同参画に関する議論を深める予定である。

(2) 大会中の一時保育施設の設置

第 68 回大会（平成 17 年 9 月 10 日～12 日、日本大学湘南キャンパス）の期間中に、一時保育施設を設けた。

(3) 執行部の体制強化

平成 17 年より、評議員選出の 1 名の理事を、正式に女性若手研究者支援担当とした。

名古屋大学における男女共同参画の動き

名古屋大学において男女共同参画室が男女共同参画推進専門委員会と連携して行ってきた取り組みの中で、学内保育所の設置は最重要課題の一つとされている。平成 15 年度に実施した学内調査の結果、保育所設置へのニーズは切実であり、男女を問わず仕事と子育ての両立支援として重要であること、一定数の利用が確実に見込まれることが確認された。そこで、専門委員会の下で育児支援ワーキング・グループにより、資料収集、関連機関との協議検討が重ねられてきた。本年（2005 年）1 月、名古屋大学が保育所を運営することに関して、役員会、部局長会、及び教育研究評議会で承認を得た。現在、保育所設立準備作業委員会により、利用規定の整備、保育業者選定などに関する作業が進められている。10 月には、建物の建設を開始し、11 月には、利用予定者を対象に、第二回説明会（第一回説明会は 3 月に実施）を開き、入所希望者の募集を開始する予定である。保育所の概要な下記の通りである。

【保育所の概要】

- ◇ 保育所の設置は、「職員の福利厚生、国際交流などを包含した名古屋大学の男女共同参画事業」として位置づけられています。
- ◇ “さまざまな人との出会いと触れ合い” および “自然との触れ合いと共生” を目指す質の高い保育を実践します。定員は、30 名（常時保育 26 名、一時保育 4 名）です。
- ◇ 大学という職場環境を考慮した柔軟な保育形態を計画しています。年度途中の入園や一時利用にも対応します。
- ◇ 開園時間は、7:30～21:00（休園日：日曜、祝日、年末年始）、基本保育時間は平日の 8:00～19:00 です。常時保育ご希望の方には、基本保育時間の間に 2 種類のコアタイム（9 時間半、7 時間半）を設定していただきます。
- ◇ 保育料は、約 40,000 円～約 65,000 円程度の予定です。
- ◇ 場所は、東山地区の緑に囲まれた山の上テニスコート北側です。

【2005 年 4 月以降の男女共同参画室の活動】

- 4 月 10 日、「ノルウェー・日本 男女共同参画ジョイントセミナー」の共催。
- 6 月 4 日～25 日、名古屋市女性会館との連携講座「妻と夫のパートナーシップ」(4 回)の共催。
- 7 月 14 日・15 日、内閣府・愛知県・名古屋市主催の「男女共同参画セミナー in あいち」に協力。
- 8 月、「子育てと仕事の両立支援に関するアンケート」の実施。
- 8 月 22 日～24 日、部局長ヒアリング（2001 年より毎年 1 回開催）の実施。

1. 男女共同参画学協会連絡会への参加

地球電磁気・地球惑星圏学会（以下、SGEPSS と略す）は、2003年7月に男女共同参画学協会連絡会にオブザーバーとして加盟し、これに対応して、男女共同参画検討・提言WGを設置した。2005年4月に学協会連絡会へ正式加盟した。この間、運営委員会は第22期から第23期へ代替わりし、WGも新規メンバーを入れ、活動を拡大している。

2. 活動報告

・「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像 ---男女共同参画推進のために---」と題した男女共同参画学協会連絡会の調査研究へ参加

2003年の実態調査にたいして、会員の15%にあたる107名（男性86名 女性21名）の回答を得た。この調査の結果は、学会HPに掲載している。

・自然科学系有志学協会・男女共同参画推進委員会から日本学術会議会員候補者選考委員会に提出された「日本学術会議女性会員の選出について（要望書）」に有志学会として参加。（2005年3月22日）

2002年9月、文部科学省男女共同参画推進本部では 審議会等および懇談会等における女性委員の登用を2005年度末までのできるだけ早い時期に30%を達成する 目標を設定した。

日本学術会議会員候補者選考委員会の「日本学術会議会員候補者に関する情報提供について」において女性研究者を30%含むという方針が出された。

要望書では、当初の目標に沿って多くの女性会員が選出されることを要望した。

・2005年地球惑星科学関連学会合同大会でユニオンセッション「地球惑星科学における男女共同参画」（共催：男女共同参画学協会連絡会）を開催。若手研究者から指導的研究者、学術行政のトップに位置する人など、さまざまな階層の講師を迎えて講演会、ポスターセッション、懇談会を行った。特に若手発信の雇用問題（ポストク、任期付き職）では、これに端を発する問題も多く、自らの問題として意識を高めていこうと呼びかけた（本ポスターセッションでも紹介）。学会連合の中村正人氏から、この活動を継続発展させることが提起され、セッションを締め括った。

・内閣府主催の「理工系分野へのチャレンジ・キャンペーン」にSGEPSSが協力団体として参加。

（参考URL: <http://www.gender.go.jp/c-challenge/>）

・「女子高校生のための科学夏の学校（主催：男女共同参画学協会連絡会、日本物理学会、女性教育会館、等）」の開催に関して、WGメンバーとして参加。

・今年の秋に京都大学で開催される「第118回SGEPSS総会および講演会」にて、初めて託児ルームを設け、学会から利用料補助金も支払われることになった。

土木学会

Japan Society of Civil Engineers (<http://www.jsce.or.jp/>)

1. 土木学会の概要

土木学会は、1914年に社団法人として設立され、「土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与する」(土木学会定款)ことを目指して、さまざまな活動を展開している。

会員は、教育・研究機関のほか、建設業、コンサルタント、官庁など多岐にわたる職場に属する。2004年12月31日現在の会員数は40,035人で、女性会員数は994人(正会員507人、学生会員487人)、女性比率2.5%である。また、平成17年度の学会役員に初めて女性理事1名(役員数32名、女性比率3.1%)が選出された。

2. 土木学会ジェンダー問題検討特別小委員会

本委員会は、2004年6月1日にアメリカ土木学会(ASCE)のギャロウェイ(Patricia Galloway)会長を迎えて開催された女性土木技術者に関する特別座談会を契機として、企画戦略グループ教育企画部門教育企画・人材育成委員会所属の暫定的な委員会として設立された。委員は7名(うち、女性5名、男性2名)で構成され、活動期限(2005年度末)までに土木工学関連分野におけるジェンダー問題について現状の把握および分析を行い、土木学会が何をすべきかを提言することを活動の目的としている。

3. 活動状況(2005年9月現在)

(1) 小委員会の開催 6回

(2) 問題点分析ワーキングの開催 1回

問題意識を互いに認識するとともに問題点を整理して、ジェンダー問題に対する共有認識を深め、成果目標ならびに提言内容について検討している。

(3) 土木学会全国大会での研究討論会の実施

日時: 9月8日(木)

場所: 早稲田大学西早稲田キャンパス(東京都新宿区西早稲田 1-6-1)

題目: 「CSR(企業の社会的責任)と男女共同参画社会の実現」

(4) 男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟(2004年11月より)

3. 今後の活動予定

(1) 小委員会の開催

ジェンダー問題の構造化、数値目標の設定、提言のまとめ 他

(2) 勉強会の開催

(3) 報告書の作成